

教育理念・目標	日本国憲法が定める基本的人権を尊重し、平和で民主的な社会の形成に資する主権者を育てる。 法政大学の校風として育まれた「自由と進歩」を体現する主体的で創造的な人間を育てる。 豊かな知性と教養、健康な心と身体、思考力と判断力を有する人間を育てる。
----------------	---

重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教育目標を具体化するためにどのような取り組みを行うかを議論し、実施する。 ・ これまでの人事編成の振り返りとよりよい人事の作成方法を検討する。 ・ 学校予算に関わる研修の実施、個々人が全体状況を見据え、各担当部分をコントロールし、持続可能な学校運営をめざす。 ・ 安心・安全を確保するために施設・設備の改善点を検討する。
-------------	---

共通課題

No.	評価基準	学校自己評価				学校関係者評価
		年度目標		年度評価		実施日 20XX年 月 日
		現状と課題	具体的な取組	達成状況	次年度への課題と改善策	学校関係者からの要望、評価等
1	建学の精神 (建学の精神や理念の理解と意識化)	行事の目的を総点検し、教育目標に沿った各行事の位置づけを検討した。 教育目標を各教科、分掌で具現化するための討議をさらに進めることが課題である。				
2	組織運営	<ul style="list-style-type: none"> ・ 安全性・継続性を高めるため、現状に沿った組織機構の改訂を行った。 ・ 教員会議の議事運営が合理的かつ関連に進められるよう努めた。 ・ 互いを尊重し合い、育ち合う教員集団をつくるため研修を年間2回行った。 7月は財政状況認識の共有化、2016年度以降の行事案、いじめ問題の3本立てで実施した。いじめ問題については日頃から生徒の声に傾聴し、尊重し合う関係づくりの重要性を学んだ。研修を生かし、教育的な指導論の研究を行いたい。12月教研では中高カリキュラムの検討に向けて討議した。 ・ 持続可能な学校運営を目的に、学校予算に関わる研修を実施し、個々人が全体状況を見据え、各担当部分が部分をコントロールするよう意識して取り組んだ。 ・ 2015年度予算編成にあたっては、持続可能な学校運営、教育方針に合致した配分、予算が広く生徒全体に還元されることを目的として諸事業を見直すという方針に沿って検討した。老朽化した備品の買い換え等のため、調整を行った。 				
3	教育活動 (教科、生活、進路、行事、自主活動等)	1. 教科 教務部では、2013年度総括と2014年度方針に基づき、教務・進路指導・図書・国際交流・学事の5部門が連携しつつ、各分野の業務に取り組み、生徒の学習と進路保障に努力した。学事部は今年度より教務部に編成されたが、より有効な連携のあり方を追究したい。 ・ 教育課程に関しては学内教研を通じて現行教育課程の抱える問題点等について認識を深め、共有した。 ・ 次年度からの入試・教務関係システムのリプレイスとスムーズな移行に向け取り組んだ。「道徳の教科化」への対応等、教育課程の見直しが必要な時期に来ており、2015年度の早い段階で、具体的な改訂に向けて合意を形成する必要がある。 ・ 2014年度ペアレンツ・ウィークを、中高とも学年PTA開催週の木～土の3日間実施した。2015年度は学年PTAのある2学期の土曜日に、1日のみ実施(授業参観日)という形で行う予定である。 ・ 図書部では、PCリプレイスと図書館データのクラウドコンピュータ管理の導入に取り組んだ。資料のOnline化も進めた。生徒の調べ学習の支援という観点から、パスファインダーの作成・資料提供体制を推進した。学校組織としては、司書教諭の適正な配置が課題となる。 ・ 国際交流部では、留学・語学研修など拡大傾向にある国際交流活動を安全な実施に向けて取り組んだ。語学研修に関しては、オーカムに代わるカナダ語学研修の次年度からの実施に向け、具体化を進めた。 ・ 学事部では、行事に関わっての時間割変更についても無事に対応できた。				
		2. 進路 ・ 進路指導部では、中3・高3学年会と協力し、進路指導を安全に遂行するとともに、ウェルカムフェスタの開催など高大連携・3付属校の共同のもとに進路指導内容の拡充を図った。				
		3. 生活 生活分野では「基本的人権の尊重」、「安全安心な学校生活の実現」を基盤にし、次の3点を重視した。(1)学校づくりの中心に生徒を位置づけていくこと、(2)生徒一人ひとりとどのように「対話」を育んでいくのかという点、(3)生徒各自が自覚的に行動出来る力を養成するにはどのような指導のあり方が必要であるのか、改めて「保護者との信頼関係の重要性」および「説得」と「納得」にもとづく指導の重要性を確認した。より確かなものにしていくために、日常からの個別生徒に関する				

		<p>カンファレンスの在り方や学内における情報の共有化について更に研究したい。</p> <p>次年度以降の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ルールの意味を考えさせ、規範意識を身につける取り組み。 ・ 他者と協力共同しながら、より良い社会を実現する自治の力を育て、民主主義的な規律ある生徒集団づくりを目指す活動の実施。 ・ 人権尊重の姿勢を学ぶ取り組みの検討、性教育プログラムの実践、防犯教育のさらなる向上の模索。 <p>【1】生徒会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 始業式や終業式などの式典は、生徒会執行部を中心に運営され、中高共に式典をよりよいものにしていくように取り組んだ。集中して取り組めていない部分もあったが生徒会執行部と教員が協力し、式典の意義・意味についても再度確認を行った。HRや式典の各場面において、どのような指導をする必要があるのか論議していきたい。 ・ 2010年から準備を重ね、正式に「三者協議会」を立ち上げることができた。今後は、この取り組みを更に学校全体のものにしていく必要がある。「欲求」ではなく、「要求の掘り起こし」とその実現へ向けての取り組みという側面については、まだこれから位置づけていく必要がある。委員会活動の活性化、クラス討論づくりへ向けての取り組みとも関連させながら進めていく。制服に関する検討については、三者協議の取り組みのなかで議論を行うことができた。また、生徒に実際に新たな素材での制服を試着し、モニターとしてその効用を調べることにも取り組んだ。今後は、関係諸組織で着実に検討を行い、合意が取れた内容において、内容と段取りを検討し、具体化していく必要がある。 <p>【2】課外活動</p> <ol style="list-style-type: none"> ① マネージャー制度を設置し、具体的な運用を実施した。更に実践をしていく中で、教訓を見だし、より内容のある制度にしていきたい。 ② クラブ長会議において、問題点課題点の共有化ができるようになってきた。今後は、一般の部員にも共通認識作りを更にはかかっていくことが出来るよう、運営を工夫していく必要がある。 ③ 最終下校時刻指導については、まだまだ課題はあるが、日直教員による放送の取り組みや日々の声かけ、イエローカードの運用によって一定の解決がはかれるようになった。次年度は、マナーの向上も含めて、更なる取り組みをしていく必要がある。 ④ 熱中症講習会の定着がはかられている。熱中症計の配布も取り組まれており、夏季活動の安全性の向上に寄与しているといえる。今後は、科学的に活動を行っていくための取り組みを更に検討する必要がある。 ⑤ クラブ活動の実態の把握を行い、その上での議論を行うことができた。次年度以降は、本校におけるクラブ活動の在り方論議を行い、その上での中長期的なクラブの編成を検討する必要がある。その際にクラブ顧問会議の活性化を行っていく必要がある。 <p>【3】生活指導</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 本校の教育目標にも照らし合わせながら、基本的人権を保障した生活指導のあり方の検討とそれを具体化する校則の見直しを実施する。また、いじめ防止対策推進法に基づき、「学校いじめ防止基本方針」を全学的な議論のもとに策定する ② 学習を中心とした学校生活を実践するための環境づくりの模索 ③ HRにおける生活指導カリキュラム（マナーやモラル、私物の管理についてなど）の検討および実践 ④ 中学3年間・高校3年間を見通した、安全安心な体制で実施できるより教育的な行事づくりを目指す ⑤ 人権教育・性教育・いじめへの対応など、様々な活動を通じて、生徒の存在を学び、生徒状況を的確に捉えることで、その力を伸ばす事ができるよう努める ⑥ 施設設備の利用マナーの向上とそれを具体的に実現するための運用の検討（教室利用についての検討、器物の破損の防止、部活動の「鍵」の紛失防止など） ⑦ クラブ活動の在り方検討の開始および顧問会議・コーチ懇談会の活性化とクラブ指導体制の向上をはかる ⑧ 登下校指導、とりわけクラブ終了後の下校指導体制についての検討 <p>4. 行事、自主活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 硬式野球部が259校の参加により行われている秋季都高校野球大会において準決勝に進出したことを受けて、次のような対応を行った。東京都の場合、春の全国高校選抜野球大会の出場に直接つながる試合という位置づけにあり、夏の都(西東京)大会決勝と同等の意味を有するものと判断し、ここまで勝ち進んだ歴史的な成果を讃え、共有し、神宮球場での応援を行った。当日が中学ペアレンツ・ウィークとPTAという行事の開催や高3進路指導等を鑑み、高校1、2年生全員での応援体制を整え、生徒の観戦・応援態度に対する十全な指導を行い、対応した。 	
4	<p>安全・保健管理 (保健、安全、防災、 施設等)</p>	<p>1. 保健</p> <p>アレルギーを持つ生徒への対応</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 4月に教員対象にエピペン講習会(エピペン実習)を行い、エピペン携帯者の情報共有を行った。 ・ 宿泊行事前(中1高1オリキャン、中2オリキャン、中3修学旅行)にアレルギーについてのアンケート調査を行った。アレルギーの有無だけでなく、除去食を希望するか、事前に献立の配布を希望するかも調査した。保護者の責任の下で回答してもらうよう、様式を工夫した。また、2015年度入学中学生については事前に郵送し 	

		<p>新入生ガイダンス当日で提出していただいたため、余裕を持った対応ができた。</p> <p>2. 施設・設備 ・安心・安全を確保するために施設・設備の改善点を検討した。 大学の新たな MV(ミッション・ビジョン) 予算枠として、グラウンド人工芝張替工事付随経費・体育棟屋上多目的コート改修工事が予算化された。副校長が中心となり関係部署と連携し、施設部と交渉を行った。工期が 2015 年度夏であるため、授業・課外活動の場所の代替等、検討が急がれる。</p> <p>3. 環境・防災 東日本大震災から 4 年が経過したが、地震に対する意識を高めるよう活動した。 ・防災につながる校舎内の環境整備：防災備品の充足、入れ替えを適宜行った。 ・行動計画の整備：防災カードを用いて緊急時の連絡方法などの確認を行った。 ・防災教育：避難訓練（1、3 学期）、普通救命講習（中 1、高 1）実施</p> <p>今後の課題 ・防災マニュアルの作成の検討 ・式典・文化祭・入試当日の「緊急時避難マニュアル」の確立 ・避難訓練をより実践的な方法およびあらゆる天候を想定した訓練の実施方法検討 ・緊急時避難場所として私学生徒の受け入れ方等の検討 ・学内の A E D の台数の検討。</p> <p>4. スクールランチ 中学 1 年生徒対象アンケート調査をもとに改善を図った（「栄養のバランス・カロリーの重視」から「生徒好みの味付け」に変更、弁当箱に盛りつけ温蔵庫に保管など）。スクールランチは弁当づくりの保護者負担の軽減を目的として実施された経緯がある。改めて目的について検討し、中高生の食堂の利用促進と併せて検討する必要がある。</p>	
5	<p>連携 （保護者、卒業生、 地域等）</p>	<p>1. P T A 役員、運営委員会の方々をはじめとして P T A の皆様のご尽力で基本的な活動を滞りなく遂行できた。 *役員会ならびに運営委員会の活動の工夫・改善：P T A 組織と教員組織とで連携し次年度役員候補者の選出ができた。規約の検討をさらに進め、役員選出の方法についても検討したい。 *各部会の活動の工夫・改善 ・文化厚生部：活動の内容がマニュアル化されていて、滞りなく活動できた。 ・広報編集部：マルチメディア室の PC の借用が可能になり前進したが、編集作業のあり方は検討を要する。 ・公費助成部：社会情勢も厳しい中、署名活動の意義など学習を行い、委員さんも高い意識で取り組んでくださったが、集まった署名数の減少に歯止めをかけることはできなかった。個人情報保護法下で署名にどのように取り組むか、大きな課題となっている。小中協議会問題に関しては、企画運営委員会や管理職とも相談し今後の方向性を見出したい。 *その他 ・文化祭生徒実行委員会と協議し、協力のあり方を探り、生徒には良い学びとなった。 ・PTA の規定・組織に関する資料を、12 支部の加入学校から収集し、検討の材料を準備した。 *今後の課題は ・新年懇親会以外の費用を徴収するイベントへの教員の関わり方の検討 ・運営委員会のあり方（代理出席、時間設定の問題など） ・生徒活動特別援助費についておよび緊急育英費の金額の検討と内規の整備 ・小中校協議会への関わり方 ・長期的には、役員会の組織的改変（各クラス代表との関係）</p> <p>2. 地域 登下校についての苦情は、依然として寄せられているが、指導員の方々の指導の定着や HR での声かけ指導の取り組みもあり、朝の登校に関する苦情は減ってきている。課題は下校時、特にクラブ終了後の下校や試験期間中の下校にあるように思われる。今後、実態をふまえた形で指導できるよう、各学年会、各クラブ顧問とも指導の在り方や協力体制を模索し、実践していきたい。</p> <p>3. 卒業生 11/22(土) 「第 17 回ホームカミング・デー」を開催した。 若い世代の参加者も見られ、退職教員および卒業生の親交を深めた。 参加者：69 名（卒業生 44 名・同窓会役員 10 名・プラタナス会 2 名・退職教員 3 名・教職員 10 名）退職教員(敬称略)：清水賢三(社会) 飯郷茂(社会) 若橋保男(体育)</p>	
6	<p>大学との連携</p>	<p>7/13(日)「第 2 回ウェルカムフェスタ」を法政大学市ヶ谷キャンパスで開催した。法政大学三付属校の高校 1 年生対象に、法政大学の歴史や大学での学習・生活に関して紹介した。創立 130 年を超える法政大学の歴史、大学での学び、大学生の就職活動に関連する講演（保護者の方向け）、希望者対象には現役大学生による学生企画が行われ、進路指導において有意義なものになった。</p>	

付属校独自課題

No.	評価基準	学校自己評価				学校関係者評価
		年度目標		年度評価		実施日 20XX年 月 日
		現状と課題	具体的な取組	達成状況	次年度への課題と改善策	学校関係者からの要望、評価等
1	三者協議会	<ul style="list-style-type: none"> 今年度は、高校において三者協議会を正式に発足させることができた。2014年11月に第1回三者協議会を開催した。教職員、生徒、保護者三者での「情報の共有化」や「より多くの人々の積極的な参加」などの課題はあるものの、要求を実現に結びつける取り組みを三者で行うことにより、生徒会活動を中心に更なる学校づくりの活性化に発展させることが期待できる。 中長期的には、生徒会活動を通して生徒にどういった内容を深めさせるのか、クラブ活動の教育的意義とは何か、生徒の成長を育むという視点をもって更に議論を行う必要がある。さらにPTA組織の関わり、本校にふさわしい三者協議会のあり方について検討が必要である。 生徒アンケート 2015年1月に実施し、3月に対象生徒に還元した。アンケート集計結果は、3年前のアンケート結果と比較して、人権を重視した取り組みが一定の実を結び、前進している部分がみられた。生徒の変化をさらに分析を進め生徒の要求を視野に入れ学校づくりを進めたい。 				
2	教育理念	<p>前述の生徒アンケート結果を3年前と比較すると、法政中高の伝統や校風に対する肯定感を見て取ることができる。付属校らしい学習に対する期待感がうかがえ、学校行事への期待も高まっている。</p>				
3	入試広報	<ul style="list-style-type: none"> 入学者男女比のアンバランス是正のため、中学入試、高校入試(推薦・一般)とも、男女の募集定員を設定し、査定において男女別に合否判定点を設け、入学者人数を男女比1:1に近づけるようにした。 今年度も本校の認知度の向上、受験生のさらなる獲得を目指し、内容を精選しながら広報活動を行った。各種メディアについては、改訂作業を中心に行った。また、入試イベントの企画・運営(学校内・外部の説明会、直前対策講習会、オープンキャンパスなど)を行った。 イベント面では、オープンキャンパスを7月上旬に開催した。従来の企画は継続しつつ、在校生の参加発表の企画がより効果的になるように努めた。文化祭では、ミニ説明会の運営体制のスリム化と説明内容の整理を図りつつ個別相談会も実施し、様々な質問に対応できるように努めた。秋の学校説明会では、多くの教職員の協力を得つつ、滞りなく開催できた。中学説明会では、今年も共学第1期生の6年間の成長過程を記録したスライドを上映したが、昨年同様、受験生には好評だった。 従来の学校見学(事前予約なし、指定されたエリアのみの自由見学)に加え、新たに施設見学会(事前予約制)を開催し、受験生への対応を手厚くした。 来年度から学校案内冊子の業者が変わるが、よりアピールが期待できる新規の業者に決めることができた。また、掲出料金が高額であり、これまで見合わせていた最寄駅(JR 吉祥寺・三鷹)ホームの看板を、ようやく掲出することができた。本校の認知度の向上などに結び付けていきたい。 今年度も新入生ガイダンスにおいて、受験生の実態を把握するためアンケートを実施し、志望動機や併願校、入学後に期待すること、宣伝効果、入試全般に関する意見などを調査することができた。結果を分析し、今後の広報活動・入試戦略に役立てたい。 				
4	地域	<p>有志の生徒が定期的にコミセンでの小学生との交流行事を行うことができた。今後は、継続的に行っていくことが可能な体制づくりが必要である。</p>				
5	子育て茶話会	<p>本会は2012年より緩やかにスタートし、2014年度は月1回土曜日に開催し、年間6回実施した。保護者、教員、スクールカウンセラー、地域の方々など10名前後の参加を得て、「人とつながる力」「子どもの自立は親の自立から」など様々な話題で懇談した。4年目に入る2015年度は位置づけを検討し、保護者の要求に沿ったものに発展させたい。</p>				